特集 英語を使う技能の育成

インプット(リスニング)から アウトプット(スピーキング)へ

重松　靖（東京都国分寺市立第二中学校）

1. はじめに

「さあ，ミルクの時間ですよ」「おむつを替えましょうね」等々，生まれたばかりの赤ちゃんは家族や周囲の人たちから毎日毎日多くのことばを聞くことを通して母語を習得していく。第二言語習得においても，聞くことなどのインプットを通して言語能力の発達が促進されるということはStephen D. Krashenなど多くの研究者も強調している。

Krashenはその著書 *Principles and Practice in Second Language Acquisition*（Prentice-Hall International, 1981）において，効果的なインプットの条件として次の4点を挙げている（pp.62-73）。

（1）Optimal input is comprehensible.
（2）Optimal input is interesting and/or relevant.
（3）Optimal input is not grammatically sequenced.
（4）Optimal input must be sufficient quantity.

新しい *NEW CROWN* では，これら4つの視点を大事にしながらインプット（リスニング）を十分に行い，無理なくアウトプット（スピーキング）へ移行できるよう，いろいろな面で工夫されている。入門期とレッスンの題材内容導入という視点から具体的な例を紹介する。

2. 入門期の指導

(1) 本文導入のためのリスニング活動

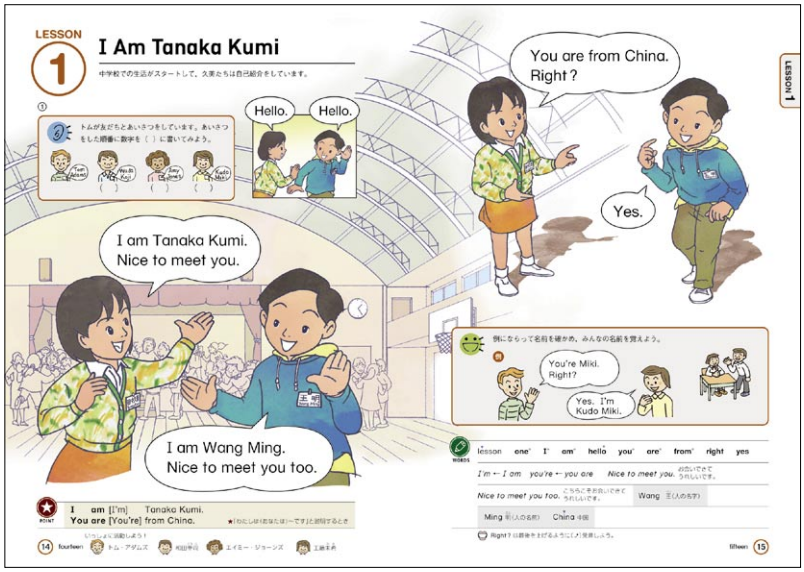
1年の入門期であるLESSON 1～3では，本文の学習に入る前に簡単なリスニング活動を用意している。

この活動には次のような特徴がある。

① 基本文を繰り返し聞かせ，耳からの導入・定着を図る。【Optimal input（4）】
② 設問は重要ポイントに的を絞った簡単なもので無理なくできる。【Optimal input（1）】
③ 本文の内容にスムーズに移行できるよう内容に関連性を持たせている。【Optimal input（2）】

小学校での英語活動が盛んになっているが，本格的に文字に接する生徒は少ないのが現状である。教科書のイラストを助けにしながら，聞くことから本

1年 Lesson 1 Section 1 “I Am Tanaka Kumi”



文の導入をすることは，入門期の生徒たちにとって無理のない活動である。具体例を示す。

6ページに示した教科書の左ページ上に，導入として「トムが友だちとあいさつをしています。あいさつをした順番に数字を（　）に書いてみよう。」という指示のあとに，次のような対話を聞く活動がある。

Script

Tom : Hello. I am Tom Adams.

Miki : Hello. I am Kudo Miki. Nice to meet you.

Tom : Nice to meet you too.　（以下省略）

教師はCDを聞かせ答えの確認をしたあとに，次のように発話する。

T :（1人の生徒に向かって）Hello. I am Ito Kenji.

T':（向きをかえ，生徒になったつもりで）Hello. I am Ide Emi. Nice to meet you.

T : Nice to meet you too.

1人2役で上記のような英語を数名分聞かせたあとに，生徒の部分の発話を促すジェスチャーを行えば，それまでに十分なインプットができているので生徒も無理なく "Hello. I am Okuda Ryo. Nice to meet you." と発話できるはずだ。

数名の生徒とやりとりをしたあとに，ペアやグループ内での生徒同士の対話練習へと発展させる。CD→教師のひとり芝居→教師対生徒，といった基本文の英文を繰り返しインプットされることで理解が深まると同時に，自信を持つことができ，生徒対生徒によるアウトプット（スピーキング）へ無理なく移行できる。

(2) スピーキング活動

教科書右ページ下には，スピーキング活動が用意されている。この活動は次のことに配慮されている。

① 口頭で繰り返し使うことによって基礎・基本を定着させる。

② そのセクションで学習した重要事項だけを使って会話ができる。

③ 楽しく活発に活動できるように工夫されている。

セクションの学習が終わったあとのまとめとして活用することもできるし，音声による基本文の導入，教師による説明と簡単なドリルのあとのコミュニケーション活動として活用することもできる。「読む」「書く」といった文字での学習の前に重要事項を音声で運用できるようにしておくことは，入門期の生徒にとってはよいことである。

3. プレ活動

今回の *NEW CROWN* の大きな特徴のひとつは，1年のLESSON 6から登場するプレ活動（Pre-activity）である。この活動には次のような特徴がある。

(1) インパクトのある写真等を使って，レッスンの題材内容を導入し，生徒の学習意欲を高める。

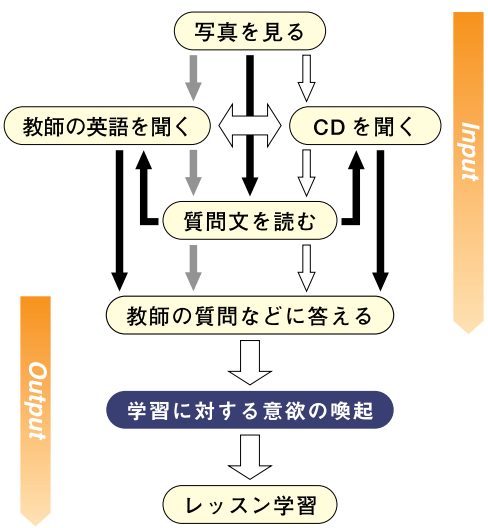
(2) リスニング音声がついているので，それを使っての導入ができる。

(3) それぞれのページには，既習文型・語彙を使った簡単な疑問文を配置したり簡単なタスクが設定されており，内容確認ができるとともに，生徒の様々な意見を引き出すことができる。

(4) 活動時間は10分以内。

プレ活動の指導手順はいろいろ考えられるが，主なものを示すと次のようになる。

プレ活動の流れ

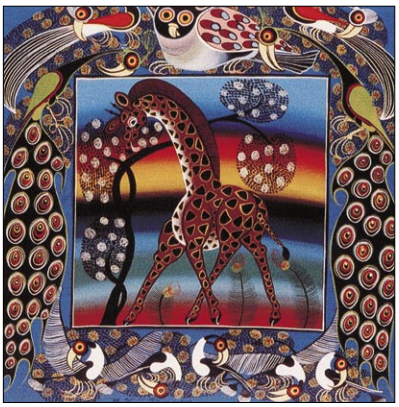


大切なことは，写真などを見ることによる視覚からのインプットと，教師またはCD，教師対生徒とのやりとりなどによる聴覚からの英語のインプットを通して，題材に対する関心を高めさせるとともに，

内容を予測させたりスキーマを活性化させることによって「読んでみたい」というさらなるインプット，また「話したい」「答えたい」というアウトプットの欲求を高めさせることである。

具体例を 1 つ示す。

3 年 Lesson 2 “Interview with Ms Kileo”



上の写真を見せ，内容についての予測を立てさせる質問をしたあとに CD を聞かせる。

Script

We see several animals in this picture. We see ten birds. The birds are beautiful, aren’t they? And we see a *kirin* in the center of the picture. What’s ‘kirin’ in English? It’s ‘giraffe’. The giraffe is as tall as the tree.

Think about the animals in the picture. Are they from Asia? No, they aren’t. Are they from South America? No, they aren’t. They’re from Africa. This picture was made by an artist in Africa. Let’s learn more about animals’ and people’s lives in Africa.

次のような質問をしながら内容確認。必要に応じて数回聞かせてもよい。

What do you see in this picture? / How many birds do you see? / Where is this picture from? / How do you say ‘kirin’ in English? / Which is taller, the *kirin* or the tree? / Who painted this picture?

さらに，次のような質問をしながらアフリカについての関心を高めさせることもしたい。

How many countries are there in Africa? / What countries are there in Africa? / What animals are there in Africa? / What languages are spoken in Africa?

正答することが目的ではないので，答えを推測させながら多くの生徒に答えさせ，学習に対する動機付けをし，レッスンの学習に入ることになる。

T: We are going to learn about Tanzania. Do you know anything about Tanzania? The most famous painting style in Tanzania is called Tingatinga. This picture is one of them. Let’s learn more about the country and people there, shall we?

4. ポスト活動

プレ活動で示されている写真などはレッスンの題材内容を象徴するようなものが多く，題材内容の深化や発展的な活動にも有効に使うことができる。しかし，題材内容についての十分なインプットが済んでいる段階なので，活動はスピーキングやライティングなどアウトプット中心となる。

以下にいくつかの例を示す。

(1) 写真を説明するスピーチをしたり書いたりする。
(2) ニュース番組や新聞という設定で写真を使ってアナウンスしたり記事を書いたりする。アナウンサーと解説者という設定で，Q&A 方式でまとめることもできる。
(3) 写真にタイトルをつける。
(4) 内容に関連する地域の話題を話したり，書いたりする。
(5) 感想や印象を発表し合う。その結果をグラフなどにまとめる作業もよい。

5. 終わりに

聞き取れないことは発話できない。アウトプットさせるには，インプットを十分に与え，自信と意欲を持たせること。それが英語教師に課せられた責務であるとともに，醍醐味でもある。インプットは教師や CD の英語を一方的に聞くだけではない。教師対生徒や生徒同士の対話も立派なインプットになる。*NEW CROWN* を使って授業そのものをダイナミックなコミュニケーションの場にしたい。